

玉川上水ネット総会記念講演会 代表挨拶

＜（令 6. 7. 13 14:00～）於：武蔵野プレイス＞

- 「玉川上水ネット」の代表を務めている西村です。

本日は、2024 年度（令和 6 年度）「玉川上水ネット総会」に先立ちアトラクションとして記念講演会を開催することにしました。梅雨のまっただ中の暑いところですが大勢、お集まりをいただきましてありがとうございます。

- 私達の会は、2011 年（平成 23 年）に設立した団体で、現在、玉川上水沿川地域の関係団体 18 団体と 5 人の個人会員で構成されております。

私達の活動は、玉川上水関連の水と緑の関係者が情報交換会やリレーウォークなどを実施し各地域の実情を知りあい、その課題の情報共有を図りながら、交流会・研修会等を開催しております。

又、2015 年（平成 27 年）頃からは専門家や研究者等と協力しシンポジウムなどの共催事業も実施しております。そして玉川上水に関係する行政機関とも定期的に情報交換もしております。

2016 年（平成 28 年）からは「日本ユネスコ協会連盟」が進める「プロジェクト未来遺産」の登録団体としても認められその活動を続けております。これは、「玉川上水・分水網」の自然環境や歴史的・文化的景観を地域が一体となって 100 年後の子どもたちに残していく、つまり「玉川上水・分水網保全再生プロジェクト」としての活動であります。

かつては、「玉川上水とその分水網」は、南は多摩川、北は荒川に囲まれた 700 平方キロにも及ぶ広い武蔵野台地の分水嶺を、羽村から四谷大木戸までの約 43 キロを開渠で、さらにそこから先は管路（つまり木管や石管）で江戸市中にくまなく自然流下で配水されており、その一部は江戸城のお濠にも注ぎ、神田川、日本橋川を経て隅田川まで流れておりました。まさに、江戸・東京の発展を支えてきた「水の大動脈」だったのです。

最盛期には台地上に 34 の分水を掘り、武蔵野の新田開発にも役立ち、中小河川にもつながる「広大な水利システム」として「水循環都市江戸・東京の形成」にその役割を果たしておりました。当時、人口 120 万を超えた世界の大都市・江戸を訪れた外国人たちは、まちの中に整然と張り巡らされた水路をみて、イタリアのヴェネチアをしのぐ世界に誇れる「水の都」だと賞賛していたそうです。

- 特に、私達の活動のなかでも、特筆すべきは、中央大学の山田先生が代表となり結成された、「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会」との定期的な共同事業です。この団体は、関連 5 大学（中央大学、法政大学、日本大学、東京理科大学、東京大学）や私たち玉川上水ネット、玉川上水保全再生連絡会、日本橋再生推進協議会、外濠再生懇談会などで構成された研究者や民間団体による集まりです。ほぼ、毎年のように開催されるシンポジウムの際には「玉川上水系（玉川上水・外濠・日本橋川等）清流復活への要望書」を沿川区・市長の賛同を得ながら国や東京都へ提出していることです。

- 私たちの会の活動目標である「玉川上水・分水網の保全・再生」活動の輪を広げ、運動の影響力を高めていくためには、多くの団体との連携した活動が大きな力となります。

しかし、「玉川上水・分水網」は「公共の財産」であり、現状を変更するには最終的には行政の判断が必要になります。この行政の意思決定には都民の動き、つまり私たちの運動の力が大いに影響してくるものだと思います。

最近の、東京都の動きにもいい方向での変化が表れ始めております。

それは、将来の東京の姿を描く都市計画「未来の東京＝戦略」の中に、「外濠の浄化」の推進を契機として、かつてのように多摩川からの水を玉川上水に流す可能性の検討をするための事業が予算化され、すでに動き始めていることです。

また、先日の都知事選挙で3選を果たされた「小池知事」の選挙公約「東京大改革 3.0」の中にも初めての新しい内容の言葉が見られます。それは「もっと！安心で、活力あふれるまちへ」の中の「スマートシティ」の実現のために、①江戸・東京の文化を世界遺産に、②水の都の再生 という言葉であります。

また、最近の都政新報の報道を見ますと、都政策企画局が中心となり、江戸の歴史や文化を後世に残しながら、東京の魅力発信につなげるため、都が「江戸文化の世界遺産登録」に向けた全庁的な検討チームを立ち上げる動きがあります。これから検討チームの体制や、登録を目指す分野などに関し有識者の意見を聞きながら進めていくそうですが、世界遺産登録は東京のプレゼンス向上に向けた最終目標ですが、実際の登録までには越えなければならない高いハードルが沢山あるだろうと思います。しかし「江戸東京の文化を世界遺産」や「水の都の再生」と言う最終目標が掲げられたことは素晴らしいことだと思います。

こうした行政の動きは、少し自負にはなりますが私達のこれまでの運動が少しずつではあるが、行政の施策に反映されていることは大変有難いことだと思います。

○今日は、これから、総会の記念講演として、「世界遺産の魅力～玉川上水の可能性～」という演題で山下邦明先生にお話をいただくことになっております。本日のチラシの中でも、先生のプロフィールを紹介させていただきましたが、現在、上智大学国際協力人材育成センターのアドバイザーをされておられます。さらに、ユネスコを中心に国際社会への貢献や国際機関・国際協力の人材育成にも取り組まれ、数々の成果を上げてこられた先生です。

○350年以上にわたり、幾度となく江戸・東京の都市改造はありましたが、先ほども、申し上げましたように、私たちの会の大きな目標でもあります「玉川上水・分水網の保全・再生」が、やがて実を結び、持読可能な社会形成のモデルとして、東京都が公表した「未来の東京＝戦略ビジョン」で言う「東京の水と緑あふれるまちづくり」（グリーンインフラのまちづくり）が都民や行政の理解を得て実現されることを期待したいものだと思います。

そして、多摩川からの清らかな河川水が流れる玉川上水・分水網や、きれいになった外濠や日本橋川等の価値が再認識され、美しい水辺環境がかつてのような姿に再現された暁には「玉川上水・分水網の広大な水利システム」は「江戸東京の文化」として十分世界遺産になりうる価値があるものだと私は思っております。

今日は山下先生のご講演を聞きながら「玉川上水・分水網」の今後についてみんなで考える機会にさせていただければと思います。よろしくお願いします。